

平成30年7月27日

二宮町教育委員会会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

1 開会時間 9時30分

2 閉会時間 12時12分

3 教育長名 府川 陽一

4 署名委員 岡野 敏彦

5 出席委員

議席番号	出欠席	職名	氏名
1	○	教育長	府川 陽一
2	○	教育委員 教育長職務代理者	原 道子
3	○	教育委員	吉田 美佳子
4	○	教育委員	岡野 敏彦
5	○	教育委員	山内 みどり

6 出席者氏名

教育部長	志賀 道郎
教育総務課長	小笠原 純二
生涯学習課長	小島 孝紀
教育総務課教育総務班長	竹本 直昭
教育総務課教育総務班副主幹	生井 幸子
教育総務課指導班長	寺口 瑞紀
教育総務課指導班主幹	境野 朋美
教育総務課指導班主幹	永井 貴幸

7 傍聴者 10名

8 調製者 教育総務課教育総務班副主幹 生井 幸子

平成30年度 7月教育委員会議定例会 会議録

日 時 : 平成30年7月27日 (金)
9時30分より

場 所 : 二宮町町民センター2Aクラブ室

1 開会宣言

(教育長) 平成30年度7月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の指名

岡野委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 7月教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 7月政策会議結果報告を資料に基づいて行う。

(各課長) 各課の事業報告・事業予定について、資料に基づいて説明する。

- (原委員) 教育総務課の事業報告について、7月24日の幼保小研修会の内容をお聞かせください。
- (永井指導主事) 幼保小研修会では、第1部として、町教育研究所の心理教育相談員を講師に「幼稚園、保育園から小学校への連携を探る」というテーマで講話していただき、登校渋りになった1年生の事例について考えていただきました。また第2部として、幼保小の先生方が万遍なく議論できるようなグループをつくり、「幼児期までに育てて欲しい姿」をテーマに討論していただきました。なお、この研修会で効果的に話し合える内容についての意見も交換していただきました。

4 付議事項

(1) 議案第5号 平成31年度小学校使用教科用図書採択について

(教育総務課長) 提案理由を資料に基づいて説明する。

(永井指導主事) 二宮町公立小学校における「特別の教科 道徳」以外の教科用図書について、教科書採択検討委員会で議論していただいた各科目へのご意見を報告する。

- (教育長) 平成32年度から新学習指導要領に基づく教育課程が実施され、新学習指導

要領に基づく新しい教科書の採択が行われます。教科書採択検討委員会からは、現在使用している道徳以外の教科用図書に特段問題があるわけではなく、使いやすい教科書であるというご意見をいただきました。もう1年、道徳以外の教科用図書を使用してよろしいか、教育委員の皆さまのご意見を伺います。

- （吉田委員） 実際に使用されている先生方がこのまま使いたいというご意見であれば、このまま継続してもよろしいと思います。
- （教育長） 小学校の「特別の教科 道徳」以外の教科用図書については、特に変更の必要はないということではよろしいでしょうか。
- （教育委員） 全員賛成。
- （教育長） また、平成29年度に採択した小学校の「特別の教科 道徳」について、平成31年度も「東京書籍」を継続して使用してよろしいでしょうか。ご意見を伺います。
- （教育委員） 全員異議なし。
- （教育長） 平成29年度に採択した「特別の教科 道徳」についても、継続使用ということでは承いただきました。採択にあたり、発行者名を記入したものを改めて配布させていただきます。

（教育長） 各委員に、改めて議案第5号について諮る。

教育委員全員賛成により、議案は承認される。

（2）議案第6号 平成31年度中学校使用教科用図書採択について

（教育総務課長） 提案理由を資料に基づいて説明する。

（永井指導主事） 二宮町公立中学校における教科用図書について、教科書採択検討委員会で議論した経過を報告する。

- （教育長） 神奈川県採択方針、二宮町採択方針、神奈川県調査研究の結果および二宮町採択検討委員会の報告をもとに、平成31年度に使用する二宮町公立中学校における「特別の教科 道徳」の教科用図書は8者ありますので、ご意見を伺います。
- （岡野委員） 8者の道徳の教科書に目を通しましたが、神奈川県資料に掲載された発行者の掲載順にコメントさせていただきます。教科書を見るにあたっては、教える立場の先生達が使いやすい観点、授業の方向性がしばられずに自由に授業の幅が持てる視点に注目して読ませていただきました。一方、子ども達の目線からすると、自分自身のことをよく見つめることができること、他人や社会との関係をじっくり考えることができる内容になっているかという視点で読ませていただきました。

「東京書籍」は、設問がシンプルです。基本的には設問が2つ、多くても3つです。設問はそれぞれの独立性が高く、多角的に考えていくことができる構成になっています。キ

キャリアビジョンを多く扱っているので、職業選択の際に好きな職業に就くのか、安定した職業に就くのかということなど、大人でも悩んでしまうような課題に対して真剣に悩んでいけると思いました。身近な話題として、電車の窓際に置かれた缶コーヒーについて書かれたネタがありました。向かいの人が窓際に置いた缶コーヒーが倒れそうな場面に出くわした時に、自分ならどうするか大人でも悩むところです。現実的な社会性・公共性についても触れられていると感じました。一方、小学校とのつながりを考えると、巻末に「はしのうえのおおかみ」という小学校の道徳の教科書に載っていた内容がもう一度載せられています。中学生になった自分が同じ視点、あるいは違った視点で見られるというのがポイントになっていると思います。また、いじめの問題について、どの発行者も取り扱っているのですが、「東京書籍」は、題名をうまく使っているので、子ども達はその話題に入りやすくなっています。全体的に、いろんな視点から自分を見つめて考えていけるような内容になっていると感じました。

「学校図書」は、学級を作る、夏休みを過ごす、学びの記録を振り返るといった全体の流れが良いと感じました。心の扉というコラムのページがあり、そこが前段の記事をさらに深く考えるような構成になっていて、2段構えで課題が設定されています。特に2段目の設問は、1つの答えに特化せずに広い視点で考えられるようになっているので、絶妙な構成がされていると感じました。子ども達に意見交換を促し、発表し合うように導くページが多いので、人との関わり合いを持つことができる内容になっています。その他、科学技術に関することでは、癌の研究やガリレオの地動説など、真理を探究していく姿勢が丁寧に描かれていると感じました。

「教育出版」は、文字や文章が一番短く、写真・イラストで訴える力が非常に強いことが一番の特徴だと感じました。バレーボールの選手、時代劇で切れ役俳優の写真は、バックショットながらインパクトが強いため、文字以外からも考える要素を含んでいると感じました。イチロー選手や障がい者アルペンスキー選手の記事などは、これからの自分がどういう姿勢で生きていくのかというところをしっかりと考えていける構成になっています。

「光村図書出版」は、掲載内容がシーズン化されていて、自分、社会、広い視野、崇高なものという風に構成されています。キャリア形成についても、美容師や靴磨きの心意気が丁寧に描かれています。一番良いと感じたのは、「4つの窓」というコーナーがあって、自分をしっかり見つめて、自分の良いところを把握することができるということです。自分が気づいていることと気づいていないこと、人から見て気づいているところと気づいていないところ、この4つの組み合わせで決まる視点は重要です。自分で自分自身の良いところに気づき、人からもそう見えていることが本当に良いところだと感じますので、そういった視点が盛り込まれているのは大きなポイントだと感じました。その一方で、手品師・青山学院大学の駅伝の記事は、小学校から中学校へのつながりや、その先の高校、大学、就職等に向けて、自分が成長していく過程を考えていける内容になっています。

「なんだろう・なんでだろう」という記事は、生徒の興味を引き出して素直に自分のことを考えていける構成になっています。

「日本文教出版」は、一年生の冒頭がキャプテン翼になっているので、道徳という教科に入りやすいと思いました。一つ一つの素材も洗練されていて、宇宙探査機はやぶさ、さかなクン、レジ打ちの記事などは、キャリアはもちろん、一人ひとりが頑張っている姿が語られていて、それを自分に投影させることができる構成になっていると思います。「自分プラス」という設問の構成では、自分を客観的にみることや、自分だったらどうするのか主観的にみることができる構成になっていると思いました。

「学研教育みらい」は、設問が基本的に1つなので一番シンプルです。設問を取り囲む波及的な設問は、先生や子ども達が自主的に考えていくことができる構成になっています。全体的にプラス思考の考え方になっていると感じました。「クローズアップ」というロボットやI P S細胞の記事などは、未来を思い描くような内容が盛り込まれていると思いました。その中でブラック・ジャックの記事がありますが、未来を見すえるとはいえ、時代を超えて大切に培っていかねばいけない命の大切さなど、普遍的なこともきちんと盛り込まれています。

「廣済堂あかつき」は、じっくり読ませてじっくり考える構成になっています。1年生から3年生までの本のタイトルが、「みつめる、考える、のぼす」という3ステップの構成になっているので、少しずつ成長していけるような感じを受けました。それぞれの学年の巻末のコラムが、情報化社会、持続可能な社会に向けての取り組み、情報端末の取扱いなどの視点になっているので、今の社会に適応できるきっかけが盛り込まれていると思いました。

「日本教科書」は、「学ぶ、見つめる、創造する」というタイトルで成長を感じられます。自分を見つめること、人や社会とのかかわり、自然との共存といった自分と素材との分類が明確にされていると思いました。電車とホームの間に挟まれた人をみんなで電車を押し助けるという記事では、社会の中での自分の振る舞いを考えていける構成になっていると感じました。

以上、それぞれの教科書発行者に特徴がありますが、自分自身を見つめて、しっかりと考えていけるものという視点において、私は「東京書籍」・「光村図書出版」・「廣済堂あかつき」の3者が良いと思いました。

- （原委員） 町でも道徳に関する研修会を開いていますが、若い先生が多く、教科になった道徳の指導経験が未熟なことからも、授業の在り方が理想的にはならない年が何年か続くのではないかと思います。そうすると、道徳の評価の仕方をどうしていくかが問題となるようです。教科書に載っている設問の意味がこれまで以上に重くなりますので、教師の自由裁量はありつつ、一定の方向に行きすぎないものを選ぶ必要があると思います。そのような観点から、意見を追加させていただきたいと思います。

「東京書籍」は、設問に押し付けがないと思いました。生徒の自由な考えが引き出せて、

議論につながる問いかけになっています。道徳は国語や数学のような教科とは違って教材を選ぶ人のカラーが出やすいのですが、東京書籍は編集者が多いことで、独特なカラーが薄まっているからか、教材全体のバラエティさを感じました。巻末の「学びを振り返ろう」では、道徳の評価として心の評価するのではなく、道徳授業の目的が達成されたかどうかを評価する内容になっています。解説資料にも評価の事例として、自己や他者との会話を通して見方や考え方を深めることができたか、自分自身との関わり合いの中でも考え方を深めることができたか等、どちらも学習指導要領に沿っているので、教師にとっても道徳という教科の特質が分かりやすい教科書となっています。

「学校図書」は、「東京書籍」とは対極的な感じがしました。非常に結論がはっきりしていて、こうあるべしということにつながりやすい教材が多いように感じられました。葛藤や矛盾などについて、考えさせる部分が少ないのではないかと感じました。一方、学びの記録・評価については、「どんな学習をしたか、自分でどんなことを考えたか、友達の意見で印象に残ったことはないか」というのは、非常に良い内容で、このような観点で評価をすれば、学習指導要領に沿った評価ができると思いました。

「光村図書出版」は、これまで小学校で扱われていた教材が多く取り上げられていて、小・中学校での心の成長が感じられる良い点があります。内容に病気や死を多く取り上げているので、心に訴える力は大きいのですが、もう少し日常的なテーマを取り上げても良いのではないかと感じました。一番気になった教材としては、桃太郎の鬼退治や泣いた赤鬼などの昔話を取り上げたところです。内容項目を考えれば、子ども達の活発な論議が期待できると思いますが、物語は物語としての矛盾性も含めて楽しむものであって、教材として取り上げることに疑問を感じました。

「学研教育みらい」は、未来思考が強く、教材が現代的で心に響く話が多いと思いました。一番良かった点として、教科書に主題名が出ていないので、回答を考えずに読むことができるのが趣意書にも書いてあり、非常に良いものだと感じました。スポーツ選手が多く取り上げられているので、子どもたちへのインパクトが強く、興味を引くと思いますが、現在活躍している人というのは、この先どうなるか分からないところがありますので、怖さはあると思います。評価については、意識しすぎてないところに好感が持てました。

「廣済堂あかつき」は、別冊がありますが、小学校の教科書採択の際にも別冊の議論をしました。私としては中学生が机上に2冊出しても問題ないかと思いますが、委員の皆さまのご意見も伺いたいところです。教材の内容としては、特殊で非日常的な古い素材が多いので、今どきの中学生の興味を引くだろうか心配な点もあります。しかし、発問は深く考えさせられる良いものになっています。一番気になったのは評価です。心のしおりで内容項目ごとに自己評価させるようになっています。項目によっては達成度をパーセンテージで自己評価させるようになっています。自分を振り返るのは大事ですが、教師がこれを誤って評価資料にしてしまわないか心配になりました。

「日本教科書」は、横文字が多いのが気になりました。文脈についての発問が多く、国

語の読み取りの感じが強く出ているので、教材を離れたところでも、自分の力で内容項目について考えることにつながりにくいのではないかと思いました。評価については、心の成長を振り返るといったあるべき姿を求めているように思いました。

この道徳8者の中では、先生が使いやすく、子ども達には考える時間になり、誤りなく評価ができるという観点から、「東京書籍」が良いと思いました。

- (吉田委員) 私は保護者から見た子どもの視点として、子ども達がどのように捉えるかをポイントの1つに考えました。

「東京書籍」は、巻頭の見開きに1年間で学ぶことが明記されています。教科となった道徳であっても、子ども達にとってはまだ漠然とした教科ですので、ダイレクトに伝わる良いものだと思います。いじめ問題に関する内容は身近な問題でありつつも、問題を再確認しやすい教材になっています。小学校でも「東京書籍」を採用していることもあり、つながりの積み重ねができると思いました。

「学校図書」は、1ページ全面の枠なしに選手の写真があり、感動が全面に伝わり、とても印象的でした。紙の色、文字の形、濃さなどもバランスが取れているので見やすく、写真、イラストの種類が豊富で配置が良く、子ども達は内容に飽きることなく集中できると思いました。

「教育出版」は、教科書がコンパクトで持ちやすい反面、構成が単調だと思いました。いじめ問題についてはスパイラル学習ができるように構成されていて、身近で重要な問題を繰り返し学習できる点は評価できると思いました。導入でねらいが簡潔にまとめられているので、子ども達にとっても学習内容がわかりやすいのではないかと思いました。

「光村図書出版」は、身近な話題から知りえないような話題まで、多彩な題材が取り上げられているので、読み物としても興味が持てる内容になっていると思います。ページの余白や行間もバランス良く、イラストも多種にわたっていますし、学びのページが簡潔かつ充実して設けられていて、子どもたちも授業の振り返りがしやすいと思いました。

「日本文教出版」の「明日を生きる」というタイトルは、道徳を学ぶ目的や子ども達への期待が込められていて、とても良いと思いました。巻頭に学び方が明確に示されているので、教科書の全体像や構成がわかり易いです。道徳ノートに友達や保護者の意見を書き込む欄があるのは特徴的で、充実した内容だと思います。縦書きや横書きなどが変化に富んでいて、飽きやすい中学生にも配慮した構成ではないかと思いました。

「学研教育みらい」は、他の発行者と比較してサイズが大きいのが特徴です。今の中学生は、A4サイズに慣れているので、プリント使用の場合には、サイズがそろって良いのかもしれませんが、大きなサイズだと重いのではないかと、机の上に広げたら大きすぎるのではないかと問題に取り上げられるかもしれませんが、A3の見開きサイズはまるで図鑑を見るように写真や図表を見ることができると興味をひくと思います。持ち運びが少なく済むのであれば問題ないと思います。「クローズアッププラス」という内容は、先生が授業の展開をするのに役立つポイントではないかと思いました。

「廣濟堂あかつき」は、サイズが小さく、机上で広げた時に手で押さえなくても落ちつくので、子ども達には使いやすい教科書だと思いました。学習の手がかりでは単元の内容が明記されていて、ノートには教科書の内容が組み込まれています。自己評価欄について、先生が誤って評価資料にしてしまわないか心配だというご意見もありましたが、子ども達は字で書くよりもグラフ等で表した方が理解しやすく、斬新ですので、子ども達の興味をひくのではないかと思います。

「日本教科書」は、学年間のつながりに連続性があると思いました。3年間を通した道徳の学習をする時に、中学1年生から3年生では、体も心も大きく成長する時期になりますが、その発達段階を踏まえて、学年間でのつながりが持てるような教材を取り上げています。次年度に向けての目標を立てるページがありますので、落ち着いて考える時間を持つということも道徳科の目的に合っていると思いました。

どの発行者の教科書も充実したものですが、小学校から使い慣れていて、その上のステップへ進むことを期待しまして、「東京書籍」が良いと思いました。また、図鑑のような映像的なものに慣れている中学生が、授業に集中することを期待して、「学研教育みらい」・「廣濟堂あかつき」も良いと思いました。

- （山内委員） 中学生は自分を見つめ、他者との関係に悩む時期です。また、一人前の大人へと人間形成をしていく大事な時期だと思います。自立、自尊・アイデンティティの確立へとつなげていくために、道徳の教科書をどのように捉えるべきか考えました。二宮の子ども達に、どの点を重点的に補強してあげたら良いか、どの分野が必要とされているのか、そのニーズについても考えてみました。また、教科書の重さについても実際に体感してみました。二宮の中学生には、「自分を見つめ、他人をよく見る、コミュニケーション能力」を強化して欲しいと思いましたので、それを補強するための教科書はどれかという目線で次のように考えました。

目線の1つ目として、「考える」、「話し合う」という2つのコミュニケーション能力は、自分の考えや他人の言っていることをしっかりと深く考えることだと思います。その能力の強化を図るには、振り返りながら考え、話し合うことがポイントですので、その点で優れた発行者は次のとおりだと考えました。

「東京書籍」は、全てを言ってしまわずに、子ども達に考えさせるような余白を残した設問がされています。

「光村図書出版」は、読み物としても感動させるものが多いです。最上位に話し合いが置かれていて、考えやすいように具体的な設問がされていますし、学びの記録も工夫がされています。

「学校図書」は、後半の学びに向かう「考えよう」という内容がとてもわかりやすく、優れていると思いました。

「廣濟堂あかつき」は、後半の話し合いが子ども達にもわかりやすく、具体的かつ丁寧な導き方をしています。

「教育出版」は、1年生の命の大切さ、2年生のいじめ、3年生の情報との付き合い方とありますが、それらの問題を自分自身に引き寄せ、深化させられるような試みがされていると思いました。

目線の2つ目として、道徳のテーマ設定を見た時に、自分が何を学ぶのか、生徒にとってわかりやすいものが良いと考えました。その点で評価できるのは、「東京書籍」・「学研教育みらい」・「廣済堂あかつき」の3者です。

「東京書籍」は、1年間で学ぶ内容が明確です。「学研教育みらい」は、サイズが大きい割には軽いといった教科書の重さの問題に対しての工夫がされています。

以上の2つの目線から、「東京書籍」・「光村図書出版」の2者を推薦したいと思います。

- （教育長） 観点の1つ目として、教科書採択検討委員会を傍聴させていただきましたが、「教師の自由裁量度」を重んじるという意見が多く出ていました。別冊については、つい別冊の流れで授業を進めてしまうため、必要ないとのことでした。それよりも、教師が作成したワークシートや教科書発行者のワークブックシートを活用するなど、自由に授業を構成することを重んじたいということでした。

2つ目として、新学習指導要領において、「考える道徳」、「議論させる道徳」を行うことになりましたが、原委員からもご意見がありましたように、実際に教科書の教材の中身を見てみると、従来の教師主導型の授業に合う教材のままだったり、特定の価値観の押しつけになりかねないような教材だったりしています。子ども自身が他律的ではなく、自律的な規範意識を育てること、考え、議論させることが道徳の教科としての趣旨になりますが、出版8者にはその点でも温度差があります。

3つ目として、学習指導要領における国や県の採択方針に一番近い教科書はどれかということに着目しました。心情に訴えるものも大切な要素ではありますが、感動的で崇高なものに畏敬の念を抱くというよりは、むしろ、心情はなるべく排除して、自律的にも友達の多様な意見も尊重し、認め合いながらルールをつくっていくような国民社会の熟成が必要ではないかと考えました。文部科学省が示している答申や要領を読みますと、「特別の教科 道徳」は、記述式の評価にしたとあります。特定の価値観を子ども達に押しつけるのではなく、子ども達自身が社会の中で主権者として育つようにしていくこと。そこに道徳の意味があるというのが私の意見です。

4つ目として、教科書採択検討委員会の中では、先生方は道徳の評価をととても気にしていました。しかし、道徳の授業は評価をするためではなく、道徳的な価値をもとに自律的な規範意識を育てることが目的ですので、評価は結果的なものだと強く思いました。また、評価の別冊は必要ないというのが、私も現場の先生方と同じ意見です。道徳の教科の将来性を考えた場合には、先生方にもっと自由裁量度を持たせる授業にすることが大切だと思いました。

- （教育長） 出版1者を採択するにあたりまして、これまでの意見をまとめます。

- 岡野委員 : 「東京書籍」・「光村図書出版」・「廣濟堂あかつき」
原委員 : 「東京書籍」
吉田委員 : 「東京書籍」・「学研教育みらい」・「廣濟堂あかつき」
山内委員 : 「東京書籍」・「光村図書出版」

この中で、教育委員の皆さん意見を諮っていきます。

- (岡野委員) 「東京書籍」・「光村図書出版」・「廣濟堂あかつき」の3者を選びましたが、どれも捨てがたい良さがあります。「東京書籍」は巻末に円グラフに合わせて自分の気持ちを表現する項目があり、その前にもホワイトボードにペンで自分の考えや他人の意見も取り入れながら、何度も話し合いながら書き加え、話し合いから考えの変化を体験できる仕組みがとても良いと思いました。「光村図書出版」は、4つの窓をどういう視点で考えていくか、自分や他人からの見方などを考えるきっかけづくりが上手に構成されているので捨てがたいと感じました。
- (教育長) 「東京書籍」・「光村図書出版」という意見ですね。
- (原委員) 「光村図書出版」については、病気や死を大きく取り上げていますが、心情に訴えるだけでいいのかと疑問に感じました。病気や死をきれいな形で取り扱っているように読み取れました。病気や死に向き合う過程での弱さや葛藤など、日常的なテーマで学ぶことが大事だと思います。病気や死のようなテーマは授業の中では完結しないものですので、一生考え続けられるようなテーマを生徒にたくさん与えてあげたいと思います。日常的なテーマの例として、いじめ問題は止めないといけないとわかっているけど、怖くて否定できないこともあり、そんな場面に遭遇した場合に自分だったらどうするだろうと、日々考え続けられることが大事なのではないかと思っています。そういう意味で、心情への訴えの強調には疑問を感じました。

別冊について、先生達の自由裁量度は発問の自由度だと考えますが、子ども達の意見の自由度も同時に考えなければならないと思います。自分の信条として間違っていないと自信を持って言える自由です。教師の裁量の自由度以上に、子どもの発言の自由度が保障されることが大事ですし、それを保障するのは発問次第ですが、発問は、これを専門に研究している方でも難しいテーマですし、実際に教師が発問を作るとなると大変な労力が必要となります。その点で、「東京書籍」は慣れてない教師でも、子どもの発言の自由度が保障され、教科書に書いてある発問どおりに進めることができるので、推薦したいです。

- (教育長) 子ども達の発言の自由度を保障することが一番大事で、その次が発問を上手く活用した教師の自由裁量度だというご意見です。
- (吉田委員) 中学生は、学校で先生に言いたいことをなかなか伝えることができないし、スマホで友達には容易に話せても、真剣な話を子ども同士でする機会がなかなかとれないと思います。学校現場は若い先生が多いので、通知票に子ども達の道徳評価をしっかりとできるか、普段接している子ども達と道徳の授業の中での子ども達を先生方がどのように分

けて評価するのか、不安なところです。子どもの正義感や道徳心は、親の道徳心の影響もあると思いますので、その子なりの成長を先生達には見ていただきたいと思ひますし、道徳で国語的な文章能力を評価されることには不安があります。

「廣濟堂あかつき」について、別冊はノートとしてはとても良いものですが、授業としてどう扱うのか疑問です。子どもの立場と先生方が指導する立場を考えると、別冊の中身を埋めるための作業に時間がかかりそうですし、授業がノート作りで終わってしまわないか不安もあります。検討委員会でのご意見を尊重し、私も別冊は不要だと思います。

「学研教育みらい」は、良い素材が多いので心惹かれますが、最近ではスポーツ選手の不幸事も耳にしますので、素材として使い続けることの不安感があります。

「東京書籍」は設問がシンプルなので、若い先生達がこの教科書を使えば授業ができますし、使っていくうちに道徳の指導力が身についていくのではないかと思ひました。

- （教育長） 先生方の実態やご意見も尊重して、シンプルな「東京書籍」を推すご意見でした。
- （山内委員） 「東京書籍」・「光村図書出版」の2者で悩んでいましたが、評価という点では、授業では発言が苦手な子どもでも、コミュニケーションをとれることが重要だと考えます。言いたいことを話せるようになり、それが相手に伝わるようになるには、体験していくことが大事だと思います。自分とは違う意見もあるということを幅広く知ってもらい、自分の中に掘り下げていけるようなコミュニケーション能力を身につけてもらいたいです。テーマの最後をどのように導くか、これは設問次第だと思います。また、設問に対して、発言できる子、発言が苦手な子といった生徒の特性を先生方がどこまで導けるかだと思います。別冊のノートは、一定の方向へ誘導してしまいかねないので、不要だと思います。

「東京書籍」は、「自分の学びを振り返ろう」という内容はホワイトボードがとても使いやすいですし、「考えてみよう」という内容も子ども達が具体的にどのポイントをすくい出せば良いかがわかりやすいと思ひます。

「光村図書出版」は、目次で学ぶテーマが一目瞭然で、終わった後の学びのテーマも話し合うためのスペースが広く確保されているので、自由な思考を出しやすいようになっていると思ひましたが、「東京書籍」に比べると設問が具体的であるため、ピンポイントでの話し合いにとどまってしまうのではないかと思ひました。

「東京書籍」の考えさせる余白を残した設問と、表紙のイラストが飛び出しているような優れたデザインは、子ども達が教科書を手にした時に喜ばれると思ひましたし、「光村図書出版」の「君が一番光るとき」というタイトルの柔らかさも捨てがたいものですが、最終的には、「東京書籍」を一番に推します。

- （教育長） 考え議論する道徳を「コミュニケーション能力」とするご意見でした。メールなどで私的な話ができて、公の場で堂々と自分の意見を言うことが苦手というのが日本人の特徴的なところですが、みんなの意見に耳を傾けながら、忖度せずに何かを作り上

げるということは、文部科学省の意図するところだと思います。私としても、「東京書籍」は非常に学習指導要領に近いと思います。原委員、吉田委員、山内委員も最終的に「東京書籍」を推薦されました。

- （岡野委員） 道徳は、答えのない課題に取り組むことだと思います。先生と生徒が一緒に悩めるところ、悩む余白が一番大きいところが「東京書籍」の良いところだと思います。他の教科書発行者の良いところも取り入れながら、先生は授業を組み立てて、子ども達と一緒に悩んでもらえると期待して、「東京書籍」を推薦したいと思います。
- （教育長） 私達も学校の先生も、みんなと一緒に悩みながら、「特別の教科 道徳」の成果が出るようにやっていきたいと思います。
- （原委員） 教育委員会の皆さんには是非お願いしたいことがあります。特に指導主事の皆さんには、教員の指導能力を高めるための研修を継続して行っていただきたく、お願いします。
- （教育長） これも、採択をするにあたって重要なことです。指導主事の皆さんには国の方針に則って、研修をより活性化していただくようお願いします。

○（教育長） 中学校の平成 31 年度から使用する「特別の教科 道徳」の教科書については、出版 8 者の中から「東京書籍」を採択するという事に合意されたということですのでよろしいでしょうか。

（教育長） 各教育委員に、中学校「特別の教科 道徳」は「東京書籍」を採択することについて諮る。

（教育委員） 異議なし。

○（教育長） 協議により、「特別の教科 道徳」の教科書は、「東京書籍」と決定させていただきます。

○（岡野委員） 採択とは別の話ですが、特に中学生にとって、教科書の持ち帰りは非常に重いので問題となっています。教科書 1 冊に盛り込むボリュームは、必要であるからだと思いますが、教科書用の紙質を軽くする工夫ができないものかと思っています。印刷の光沢がきれいな教科書も素晴らしいと思いますが、中身が同じなのであれば、もう少し軽くても良いのではないかと思います。最近の子ども達の、特に中学生のカバンの重さが非常に気になります。10 数キロもあるので、カバンの取り付け部分が切れてしまうことがありますので、これは何とかしてあげたいと思っています。学期ごとに分冊にしたりするなど、教科書を作る上でのひと工夫を是非お願いしたいと思います。

○（教育長） 校長会、行政関係会議を含め、いろいろな会議で話題に取り上げたいと思います。

○（教育長） 現在中学校で使用している「特別の教科 道徳」以外の教科・種目については平成 28 年度から平成 31 年度まで使用できることとなっておりますので、平成 30 年度に使用している教科書と同じ教科書を使用することとしてよろしいですか。

（教育長） 各教育委員に、中学校「特別の教科 道徳」以外の教科・種目について諮る。

（教育委員） 全員異議なし。

○（教育長） 採択にあたり、発行者名を記入したものを改めて配布させていただきます。

（教育長） 改めて、議案第 6 号について諮る。

教育委員全員賛成により、議案第 6 号は承認される。

（3）議案第 7 号 平成 31 年度小・中学校使用学校教育法附則第 9 条 による教科用図書採択について

（教育総務課長） 提案理由を資料に基づいて説明する。

（永井指導主事） 学校教育法附則第 9 条による教科用図書について説明する。

○（教育長） 学校教育法附則第 9 条は、この教科書目録や一般図書一覧の中から採択していくということですが、学校現場がこの一覧より選び、教科書を選択するということです。このことについて、ご意見はいかがでしょうか。

○（原委員） 特別支援学級を見ますと、一人ひとりの子どもに対応するような教材が、ここに掲載されているような教科書では間に合わないというのが実態だと思いますが、その状況を学校ではどのように対応されているのでしょうか。

○（境野指導主事） 各学校では先生方が様々な教材を持ってくるなどの工夫をしています。例えば、視覚教材が発達に有効なお子さんに対しては、ICT の画像や音声などの活用をしています。

○（原委員） その点で、教科書の無償給与という趣旨は生かされていて、子ども達への負担はなく行われているということですね。

○（境野指導主事） はい。

○（原委員） わかりました。

（教育長） 各教育委員に議案第 7 号について諮る。

教育委員全員賛成により、議案第 7 号は承認される。

○（教育長） 平成 31 年度使用の教科書が採択されました。この採択の結果は、町のホームページに掲載することにご了承いただきたいと思います。

5 報告・協議事項

(1) ガラスのうさぎ像平和と友情のつどいの開催について 資料No. 1

(教育総務班長) 資料に基づいて説明。

- (教育長) 「ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」は二宮の誇るべきイベントで、戦争体験を風化させないように28回も続けられてきたものです。このたび、戦争体験者の高齢化が進み、戦争体験の風化をさせないよう、富士見が丘在住の画家、相澤るつ子さんが「ガラスのうさぎ」の作者である高木敏子さんの疎開先の友人から聞き取った内容を絵本にされました。教育委員会としても、その絵本を社会科の副読本のように配付して、児童に読んでもらい、戦争体験者の気持ちを伝えていかなければ、風化してしまうという危機感を感じています。「ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」は、従来からの碑文朗読、合唱、映画鑑賞等だけでよいのかという課題があります。小中学校でも、既にいろいろな取り組みをしていますので、そういった学習成果をこのつどいに絡めていけたらと考えています。戦争体験を風化させない取り組みを子ども達へ伝えることが大切ですので、学校現場との調整を粘り強くおこなって、今の時代にあったものになるよう検討していきたいと思えます。
- (吉田委員) アニメーション映画「ガラスのうさぎ」は、上映時間が83分と授業時間より長いですが、小、中学生が卒業するまでに1回はみて欲しいと思えます。小さいころから紙芝居などの手段で、内容も工夫することで戦争体験を伝えられないかと思いました。「特別の教科 道徳」について話しておりましたが、これこそ身近にある教材だと思えます。幼児期は紙芝居でみることができた、小学校では読んだり、見たりして感想が持てた。中学校では戦争時代を振り返って調べてより深く考えることができた。というような発達段階に応じた理解の仕方があると思えます。発達段階に応じた絵画やポスターなどのコンクールなどいろいろな形で展開して、つどいの会場に行くだけでなく、広く見て知ってもらうための工夫を卒業までに取り上げて欲しいと思えます。
- (原委員) 小学校の6年生の平和学習で壁新聞を作っていると思えます。その新聞をラディアン・ギャラリーに展示するといった主体的な参加が、保護者にとって学校での様子を知ることができますので、ご家庭にとっても子どもと話し合う機会になるのではないかと思えます。戦争が風化していく中で、未来へ生きる子ども達になんとか意識づけをすることが大事だと思えます。私の年代以上に学んで欲しいと思えます。学校でやっていることでも、町民に見せる素材はたくさんあると思えますので、学校には理解と協力をさせていただきたいです。
- (教育長) 学校にとっては、町からつどいに呼ばれ、先生が引率して歌をうたい、帰らせるというやらされ感があるようです。そうであるとするならば、むしろ既にやっている

ことをPRし、学習の集約とする位置付けにしてはどうかと思いますので、校長会でも話し合っていきたいと思います。

- （吉田委員） 子ども達は、つどいへの参加に最初はやらされ感を感じるかもしれませんが、それは本心ではなく、丁寧に説明をして実際に参加してみると、終わった時には達成感を感じてくれると思います。参加することで、非日常的な何かをつかむことになるので、参加させることをやめなくても良いと思いますし、コーラスなどを発表する機会は少ないので、心にお土産を持って帰れるよう継続させて欲しいと思います。また、子どもが参加することで、保護者もつどいを見に行く機会となります。
- （原委員） 教員も若くて、戦争体験がないため、教員の平和意識が育ってないところで、引率や展示にはやらされ感を感じてしまうのではないかと思います。教師自身の平和教育も必要ではないかと思います。
- （山内委員） 町民からすると、「ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」は28年の歴史があっても、存在は薄かったように思いますが、つどいの後半に映画やアニメを取り入れた工夫がされることで、随分良いものになってきたと思います。舞台に出た子ども達が上映に間に合ように客席に戻り着席できるよう改善されました。駅前にも「ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」の素敵なポスターが掲示されていました。8月5日は休日とは限りませんが、今年は日曜日の開催ということもあり、町民へのPR方法を上手にさせていただき、たくさんの方が集まってくださるようになっていただきたいと思います。折鶴については、総務課でも集めていただいています。待っている間にも折鶴を折るなどの工夫もされていますので、今度も皆さんの興味をひくような方法を考えていただきたいと思います。
- （吉田委員） 地区長、民生委員さん達への参加依頼もされると良いですね。
- （教育長） 「ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」は総務課と教育委員会、推進委員会との共催ですが、教育委員会としては、子ども達に戦争体験を風化させないように伝えていくためにも、この機会に年間を通して平和教育につながる活動を学校に呼びかけていきたいと思います。
- （岡野委員） 小学生頃の体験で、その瞬間は分からなかったとしても、その年代に体感したことは、後々残ることがあります。私の経験として、小学校でみた「はだしのゲン」・「野生のエルザ」・「ふたりのロッテ」は、いまだに体に染み込むような印象深いものとなっています。そういった体験できる機会やその年齢にレポートできることを作ってあげることが大事だと感じます。
- （教育長） 子ども達に伝えていくことが教育の大きな仕事ではないかと思います。伝え続けなければ、忘れ去られてしまいます。教育委員さんのお力も借りながら考えていきたいと思いますので、今後もよろしく願いいたします。

（2）二宮町ふたみ記念館防犯カメラ運用要綱の制定について（報告） 資料No. 2

(生涯学習課長) 資料に基づいて説明。

- (教育長) 二宮町ふたみ記念館には、既に防犯カメラがありましたが、運用を生涯学習課が所管することになり、要綱化したということです。

(3) 二宮町小中一貫教育校推進研究会について(報告) 資料No. 3

(永井指導主事) 第1回二宮町小中一貫教育校推進研究会について報告。

- (原委員) 初めて目にするのは、最後のアンケート資料だけでしょうか？
- (永井指導主事) 資料4のアンケートと資料3の学校毎の課題が新しい内容になります。
- (原委員) 今後、この内容について教育委員会議でも扱っていくということでしょうか。
- (教育部長) 一度、教育委員会としての二宮町小中一貫教育校推進研究会のスケジュール感をお示ししましたが、この研究会自体は研究会として、独自の研究結果を教育委員会議へ報告させていただきたいと思っています。この研究会の方向性について、ご意見を伺うことではありません。教育委員会では、昨年度の先生方の検討結果と研究会での研究成果とを踏まえつつ、学校の再配置計画を作成していくことになります。再配置計画については、事務局の方でお示ししながら、教育委員会議の中でご意見を伺いながら進めさせていただきたいと思っています。時期的には、今年度末には素案の形が出てくると思いますので、その辺りで検討をお願いいたしたいと思っています。本日の第1回の研究会資料については、教育委員の皆さまにも、昨年度の検討会の結果と、その中身をわかりやすくご理解いただくために、課題とビジョンを共有していただきたくご提示したものです。学校毎の課題としては、学校毎の運動場の面積や教室数などの現状だけを示していますので、一度中身をご覧いただきたいと思います。研究会の会員の方から、検討するにも具体的な案がでない議論は進まないとか、2ペアの学校に統合するといっても、小中一貫校を2校にするのかといったご意見もいただきました。新しい学校を建設することは不可能ですので、現有施設の中での検討ですが、いつ頃になればそのような実現が可能となるか、そういう点も含めて、次回以降の研究会では示していかなければならないと思っています。また、教育委員会としても情報を共有して、再配置案を作っていただきたいと思っています。
- (原委員) この資料は、読み込んでおけばよいということですね。
- (教育部長) 今日のところは資料に目を通していただきまして、研究会の議事録ができましたら、ご報告させていただきたいと思っています。
- (原委員) 検討会に参加された方で、小・中学校分離型の設置の考えを理解されていないようなご意見もありますが、誤解がまだあるということでしょうか。
- (永井指導主事) 話題の中で、遠い未来としては、小・中学校一体型の内容がありましたので、近未来と受け取られたかもしれません。

- （原委員） そういった一定の理解に向けても、次回研究会ではお伝えした方が良いでしょうに思いました。
- （教育長） 具体案を示さないと、小・中学校の校長が1人になる義務教育学校と、同じ敷地内でも小・中と1人ずつの校長がいる施設一体型小中一貫教育校のパターンがありますので、確かに誤解を招くような内容になっているかもしれません。先程、教育部長からの話にあったように、次回以降は具体案が示されて、ご理解をいただけるようになると思います。
- （教育総務課長） 小中一貫ということについて、一体型以外にも義務教育学校としての組織が1つだけである分離型など、いろんな形態があることを説明させていただき、今後の検討へのご意見をいただきたいと思いますと思っています。
- （吉田委員） 研究会に参加されている方が、小中一貫教育校に関しての誤った内容を伝えられないか不安ですが、この資料の取り扱いはどのようにされていますか。
- （教育総務課長） 二宮町小中一貫教育校推進研究会は、公開されている会議で、資料についても町ホームページに公開しています。議事録につきましても、まとまり次第ホームページにアップしていきますので、皆様に広くご意見をいただきたいと思いますと思っています。
- （吉田委員） 教育委員会の内容については、聞かれることがありますので、町ホームページに載せていただければ、それをご覧いただくようにしたいと思います。
- （岡野委員） 小中一貫校について考える手順として、まず、最終的にどういう姿にするか、「子ども達をどう育てたいか」を決め、次にそれを実現する手段として、「世の中にはこういったタイプがあり、そのうち、二宮としてはこういう理由でこのタイプを選択する」の手順が必要です。最後はそれを1枚のA4用紙に絵で説明することが必要だと思います。頭の中で文書を読んでも理解が進みません。絵で描くと説明なしで伝わります。是非、補足説明のいらぬ資料を用意していただきたいと思います。
- （原委員） 以前、コミュニティ・スクールに関するタイムスケジュールの資料をいただきましたが、あのような資料でもよろしいのではないかと思います。
- （岡野委員） 最終的な姿については、いろいろなタイプの学校がありますので、文書ではなく絵で作って欲しいです。
- （教育長） 昨年度の検討会と今年の研究会へのご意見を参考にしながら、いつ頃、それを示せるでしょうか。
- （教育部長） 先程、吉田委員からのご意見にもありましたように、実際には、さまざまな想像をされている方がいらっしゃいます。私の主観としては、どんな良い案を提示したとしても、合意は難しく、紛糾することが予測されます。そうだとすると、練りに練った案を出すと言うよりは、将来の目標を示した上で、近々の案を出してしまわなければ、議論は始まらないと思っています。この研究会は、1年限りで既にスタートしていますが、研究会と並行して素案づくりをし、来年度には教育委員会としての計画を示すようなスケジュール感を持っています。岡野委員からご意見いただきましたように、イメージ図は何

十年後の間隔で何枚もあります。遠い将来ということでは、素晴らしい絵が描けるかもしれませんが、近々ではそのような激変は有りえないと思っています。その辺りをしっかり理解していただけるようなものを示していかなければならないと思っています。

- （岡野委員） そのような絵を出してしまうことが大事だと思います。
- （教育長） 教育部長からも、そういった絵を研究会と並行して示すような考えもありましたので、たたき台のような具体案を教育委員の皆さまにも示し、秋頃には一緒に考えていただきたいと思っています。
- （教育部長） 秋頃には、そのような機会を持たせていただければと思っています。
- （岡野委員） 80点とか90点の素案を出すということではなくて、50点でも良いので早く町民に示して、なるべく早く町民からのコメントをいただけるようにする方が良いと思います。やっぱり、8、9割の素案に仕上げしてから示そうとしているのか。素案の状態、いくつかの選択肢がある状態で町民に諮っていくのか。その辺りの作戦をどうするかだと思います。
- （教育長） 戦略ですね。少子化の中では、やらなくてははいけません。現状のままで良いわけではないことを、8割くらいの方はご理解されていると思います。最大限3つくらいの具体的な選択肢をお示しして、ご意見を伺っていききたいと思います。
- （岡野委員） いろいろな目線がある中で、3つくらいの方向性で示したら良いでしょうね。
- （教育長） そのような選択肢を町民の皆さまに示す際には、教育委員の皆さまのご意見を伺いながら進めていきたいと思っています。
- （吉田委員） 秋以降ですと、教育委員会の点検・評価や予算などの忙しい時期と重なりますので、議論する余地が残せるような前倒しのスケジュールでお願いいたします。
- （教育部長） 検討させていただきたいと思っています。
- （岡野委員） 数字を入れ込んだ資料を作るというよりも、ホワイトボードのような状態で説明しながら相談していくといったスピード感で示す部分と精査して進めていく部分の両方を使い分けながらでよろしいと思います。荒削りながらも出してしまい、じっくり考える時間を残すようにしていただきたいです。
- （教育長） 教育委員の皆さまには、具体的な選択肢が提示できた場合には、後押ししていただければと思います。
- （原委員） 熟議してきたことが見えれば良いと思うのですが、結論系の提案ですと、町民の皆さんは理解されないと思います。これだけのプロセスを踏んで議論を重ねた結果、3つの具体案になったということがわかってもらえることが、納得されることを目的としないまでも、大事なことだと思います。それぞれの会議でどれだけ真剣に町の未来を考えてきたかが、町民の理解につながると思います。いろいろな意見の経過を示すのは手間暇かかると思いますが、町の将来がかかっている関心が高いものですので、いつものこと以上に丁寧に扱っていただきたいです。

- （岡野委員） 1年前頃に意思決定の分析方法をご紹介しましたが、今後はどういう項目で評価されるかを考えて作ることになると思います。横軸の選択肢もさることながら、縦の評価軸が大事で、先生・子ども・地域・行政のどの立場から見ても○が付けられている組み合わせがハッピーなのだと思います。おそらく、全部○が付くことはないので、△や×に対してどのような手を打つかということが重要になってきます。最終的に全て○になるようにするには、このような案だというようなイメージをしていけたら良いのではないかと思います。
- （教育長） よろしくお願ひいたします。

（４）その他

● 次回教育委員会予定

（教育総務班長） 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について資料に基づいて説明。

6 閉会宣言

（教育長） 平成30年度7月定例教育委員会議を終了いたします。

12時 12分 終了